

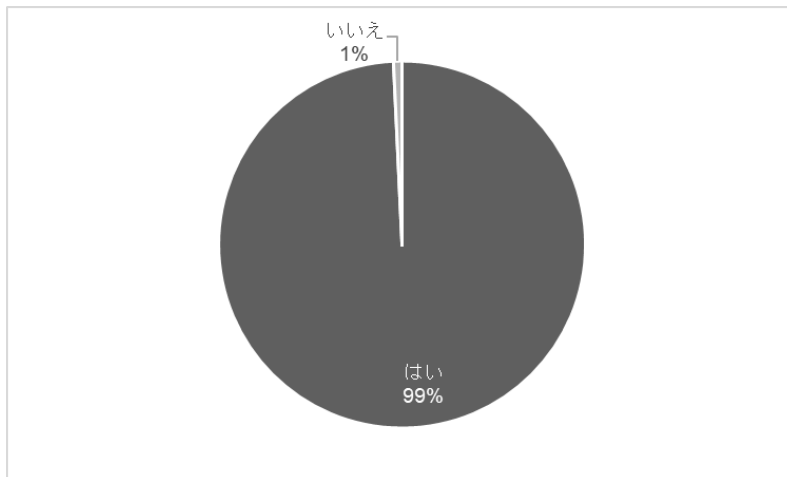
フードバンク「きずなセット」食品配布利用者アンケート報告書

I. 実施概要

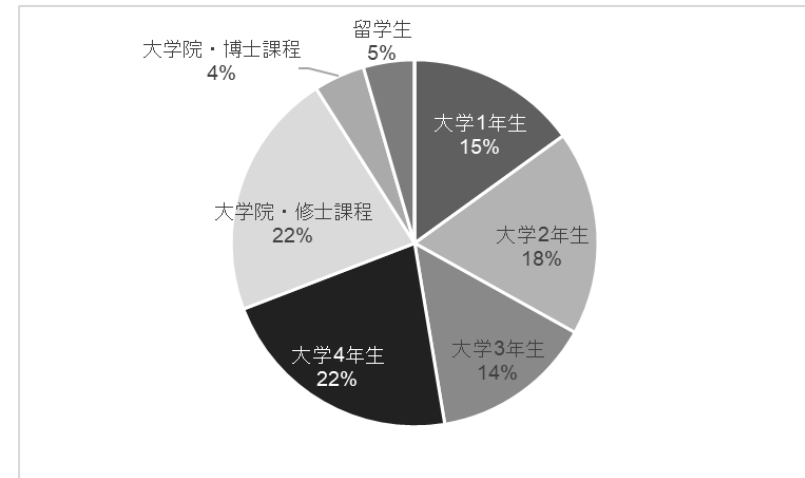
- 目的：食品配布利用者の実態を明らかにする。
- 対象：宇都宮大学在學生・事前配布希望者
- 期間：6月4日～13日
- 方法：Googleフォーム
- 有効回答数：133（回答者数134）
- 実施主体：NPO フードバンクうつのみや
- 分析協力：宇都宮大学地域創生推進機構地域デザインセンター

II. 単純集計結果

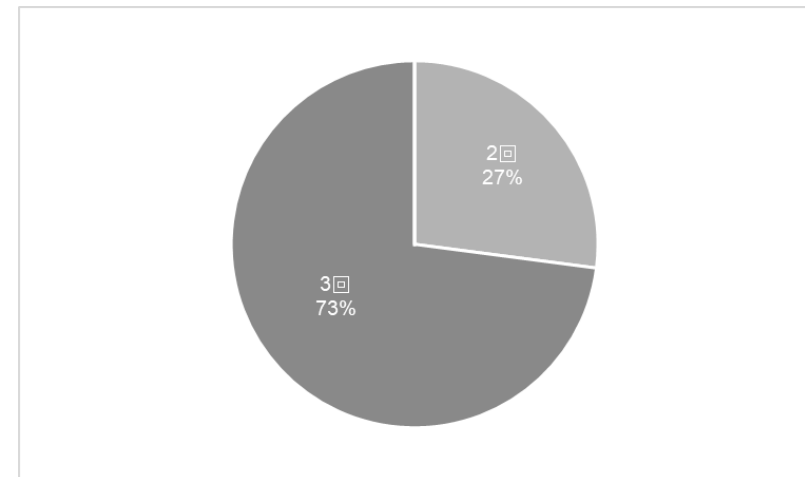
1. 今後も今回のような学生応援食品セットの配布があれば利用しますか？
(単数回答, N=133)



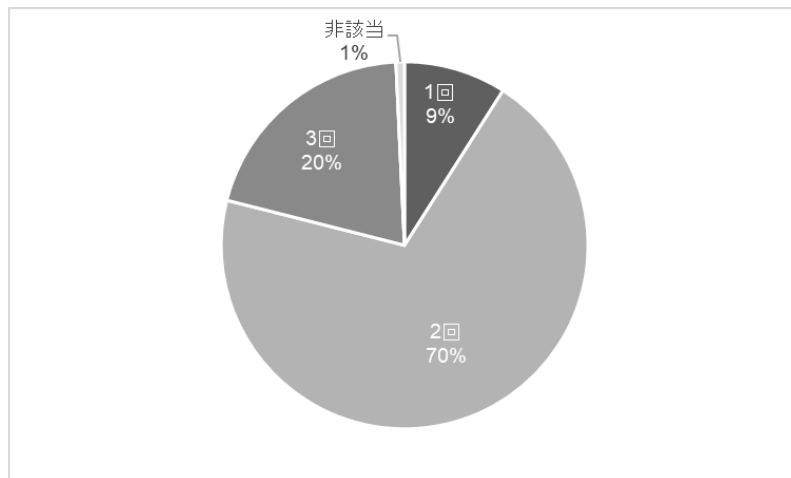
2. 所属を教えてください。(単数回答, N=133)



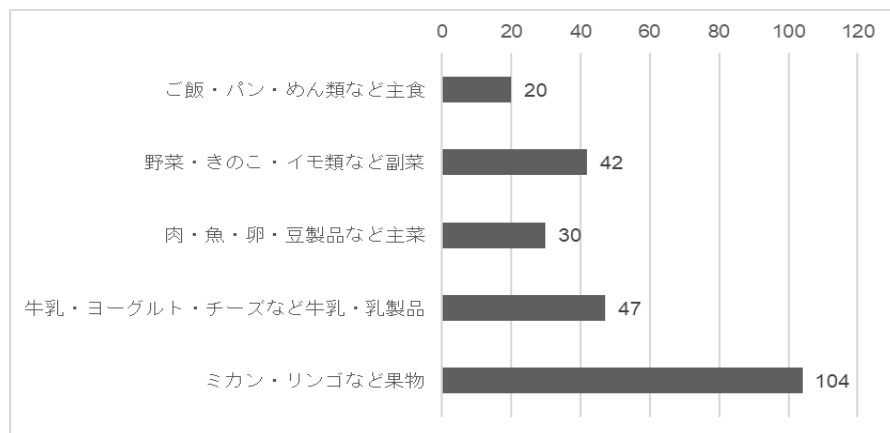
3. コロナウイルス流行前(2月以前)の、1日当たりの食事回数(平均)を選んでください。(単数回答, N=133)



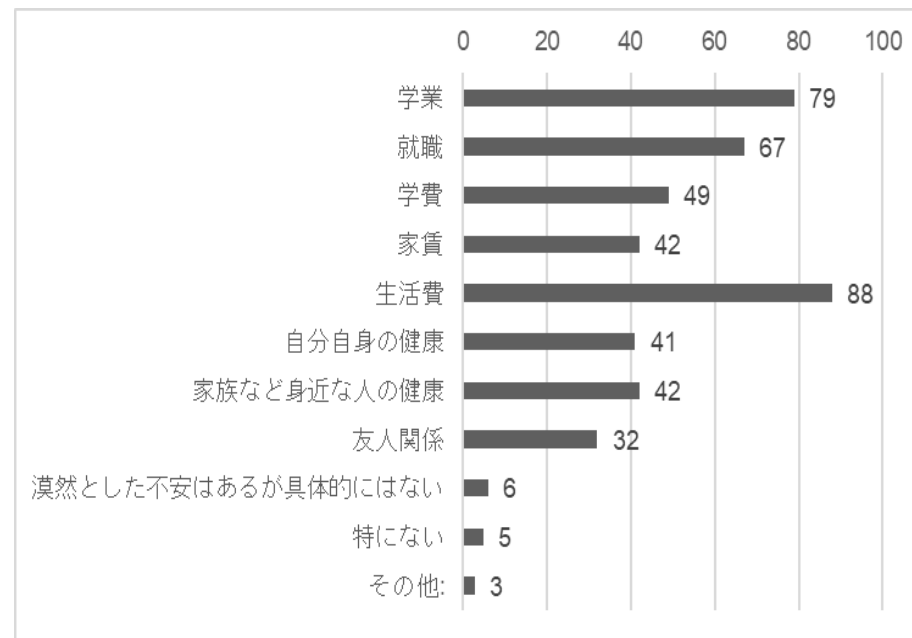
4. 5月の、1日あたりの食事の回数（平均）を教えてください。（単数回答, N=133）



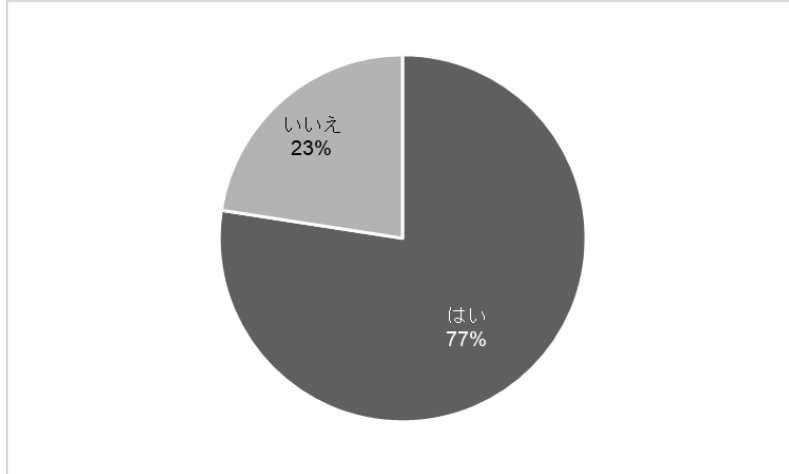
5. 今日までの過去1週間のうち、3日以上食べられていないものを選んでください。（複数回答, N=133）



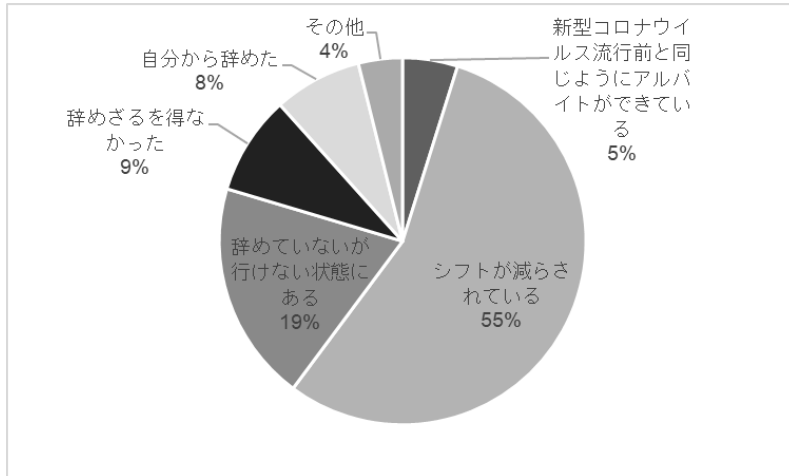
6. 現在不安を感じる事柄について教えてください。（複数回答, N=133）



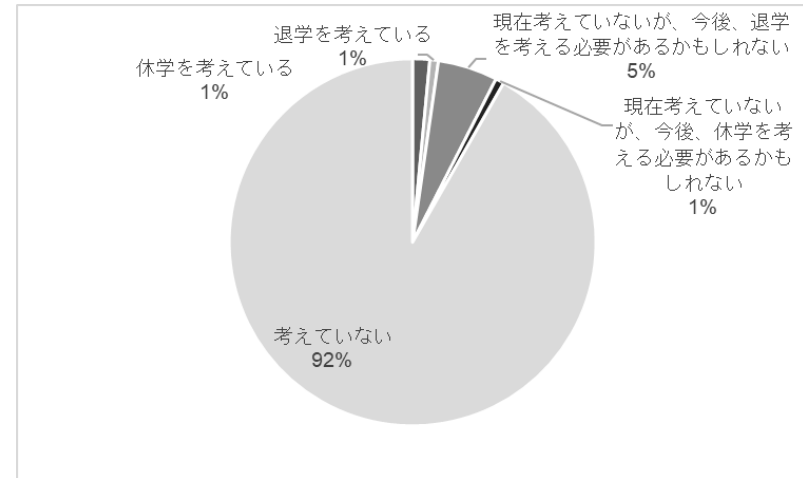
7. 新型コロナウイルス流行前（2月以前）、アルバイトをしていましたか？
（単数回答, N=133）



8. 7の質問で「1」と回答した方にお聞きします。3月～現在までのアルバイトの状況を教えてください。（単数回答, N=103）



9. 現在、大学の休学や退学を考えていますか？（単数回答, N=133）



10. 9の質問で、選択した理由を教えてください。（単数回答, N=133）

- 大学院への進学を考えているから
- 元々休学して留学予定だったが、叶わなかったため。
- 仕送り等は減ったものの給付金を活用できたため
- 肺炎の影響で、両親の仕事が影響されて、学費が払えないかもしれません。
- 卒業したいため
- まだ生活を続けることが出来ている状態のため。
- オンライン講義で、大変ではあるが単位も貰え、研究の方も論文投稿が一区切りし、急を要する状況では無いため。
- 両親の収入の減少
- 卒業までの学費を払える見込みはあるから

- 過去休学し学費を稼いでいた時期があるのと、友人がもう卒業し居ないので、休学に抵抗がありません。
- 親の収入が減ったにもかかわらず、私のためにお金を回してくれているため今のところはなんとかなる可能性があるから。
- 今のところ学費は払えているから。
- 奨学金とアルバイトでなんとか生活できるから。
- 今のところは学費面で問題はないから。
- 休学したところで可能性がない。自主的に今頑張れるのであれば、休学せずに早く卒業してやりたい事すればいいなと思って休学はやめた。
- 入学費と時間が勿体ないから
- 卒業したいから
- 今の所は、何とか持ちこたえることができそうのため。
- 今のところ実家から特に連絡はないから
- 特に学業に影響はないから
- 奨学金を多く負担しても、大学を辞めるつもりはないから。
- 中途半端にやめられないため
- 卒業予定のため
- 特にない
- 経済的余裕
- 収入が無い為
- 学費は親が負担してくれているから。
- 学費は両親がなんとか出してくれるということになっているから
- 学業は続けないと就職等にもひびくから
- 幸い宇都宮ではコロナの流行はそれほどではない上、オンラインのサ

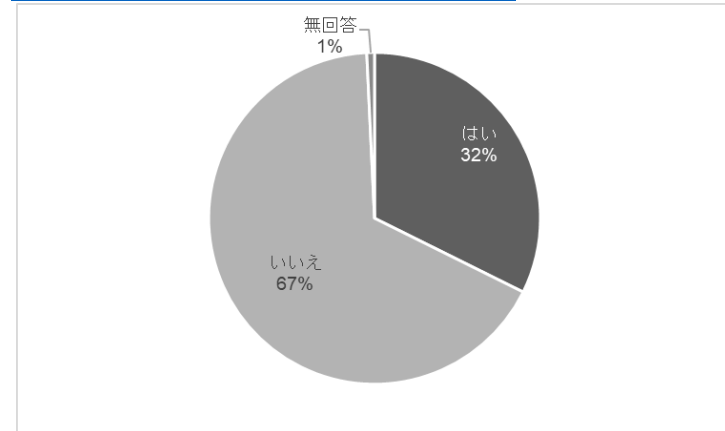
ポートも様々に増えてきているため。

- 大学卒業のため
- 親が協力してくれるから
- 今年で卒業しないと余計にお金がかかるから。
- 学費には困っていないため
- 学費には特に問題ないから
- なんとか学費を払えるから
- 続いて勉強したいです
- 留学生です。せっかく大学院に入って、やめたのは無理だと思います。
- 自分が最初は大学院に行くことと決定しましたから、簡単に諦めたくない
- 2021年に卒業予定であるため
- まだ、大丈夫そう。
- 奨学金でなんとかしようと思っています。
- 学費は困っていないから
- 卒業まで頑張りたいと思っているからです。
- まだはっきりしていないから
- その必要がないから
- 選択肢にないから
- 奨学金を借りているため、無駄にはできないと考えているから
- とりあえずは、預貯金等で対応できる範囲であるため。
- 学業が一番大切だと思いますので。
- 勉強することが好きです
- 親の仕事はあまり影響を受けていないので
- 6月から奨学金の貸与が始まり、最低限の生活費はひとまず得られた。

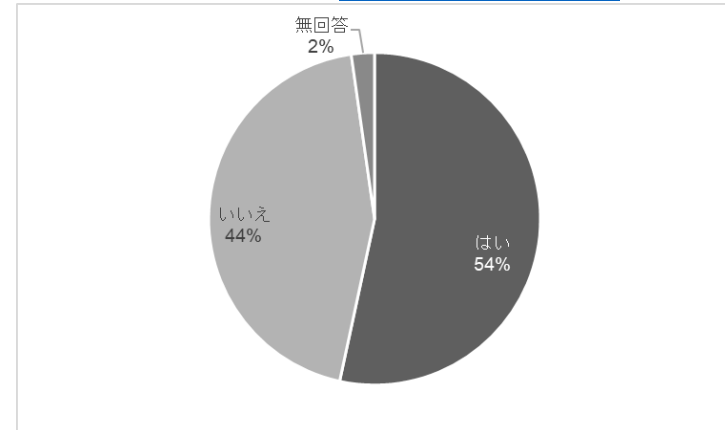
しかしながら、貸与による奨学金は事実上の借金であることから頼り切る訳にはいかないと考えている。4、5月のようにアルバイトを失う状況に再びなり、定額給付金のような公的支援を得られない場合は、休学して学費や生活費を工面することを検討する必要があるだろう。

- 制限がある中でも頑張ろうと思ったから。
- 特に親から何も言われてないから
- 学費は貯蓄してあるため
- 就職できないので

11. 栃木県若年者支援機構ではコロナでピンチな若者を応援するため「相談」を受け付けています。利用してみたいですか。(参考:とちぎ若者応援プロジェクト <https://www.tochigi-yso.org/covid-19>) (単数回答, N=133)



12. フードバンクうつのみやでは、常時ボランティアを募集しています。今後フードバンクや学生を応援するボランティアに参加してみたいですか。(参考:フードバンクうつのみや <https://fbu2189.org/>) (単数回答, N=133)



Ⅲ. 見えてきた課題

1. 大学院・修士課程への影響がみられる背景について

留学生は6名だが、名前から推測される留学生は25名程度いる。その内半数以上は大学院・修士課程に在籍している。

所属 と 外国籍学生（推測） のクロス表

		外国籍学生（推測）		
		1	合計	
所属	学部2年	度数	1	1
		外国籍学生（推測）の%	4.0%	4.0%
	学部3年	度数	1	1
		外国籍学生（推測）の%	4.0%	4.0%
	大学院・修士課程	度数	15	15
		外国籍学生（推測）の%	60.0%	60.0%
	大学院・博士課程	度数	3	3
		外国籍学生（推測）の%	12.0%	12.0%
	留学生	度数	5	5
		外国籍学生（推測）の%	20.0%	20.0%
合計		度数	25	25
		外国籍学生（推測）の%	100.0%	100.0%

2. 学年と不安感の関係について

(1) 生活費に関しては、学年に関係なく一定層が不安に思っている。
(有意差なし)

クロス表

度数

所属		生活費		合計
		不安選択無	不安選択有	
所属	学部1年	11	9	20
	学部2年	10	14	24
	学部3年	7	13	20
	学部4年	10	18	28
	大学院・修士課程	6	23	29
	大学院・博士課程	1	5	6
	留学生	1	5	6
	合計		46	87

(2) 学部3年生～大学院・修士課程で就職に対する不安がやや高まっている傾向にある。(1%水準で有意)

クロス表

度数

所属		就職		合計
		不安選択無	不安選択有	
所属	学部1年	16	4	20
	学部2年	17	7	24
	学部3年	3	17	20
	学部4年	15	13	28
	大学院・修士課程	10	19	29
	大学院・博士課程	3	3	6
	留学生	3	3	6
	合計		67	66

(2) 大学院・修士課程の学費に対する不安感がやや高い。(5%水準で有意)

クロス表

度数

所属		学費		合計
		不安選択無	不安選択有	
所属	学部1年	15	5	20
	学部2年	19	5	24
	学部3年	14	6	20
	学部4年	21	7	28
	大学院・修士課程	11	18	29
	大学院・博士課程	1	5	6
	留学生	3	3	6
	合計		84	49

(3) 大学院・修士課程の家賃に対する不安感がやや高い。(5%水準で有意)

クロス表

度数

所属		家賃		合計
		不安選択無	不安選択有	
所属	学部1年	14	6	20
	学部2年	19	5	24
	学部3年	15	5	20
	学部4年	24	4	28
	大学院・修士課程	12	17	29
	大学院・博士課程	3	3	6
	留学生	3	3	6
	合計		90	43

(5) 友人関係に関する不安は学部1年生が強い。(1%水準で有意)

クロス表

度数

		友人関係		合計
		不安選択無	不安選択有	
所属	学部1年	6	14	20
	学部2年	16	8	24
	学部3年	17	3	20
	学部4年	26	2	28
	大学院・修士課程	26	3	29
	大学院・博士課程	6	0	6
	留学生	5	1	6
合計		102	31	133

(6) 学年と休学・退学への意向 (有意差なし)

クロス表

度数

		休学・退学の意向					合計
		休学を考 えている	退学を 考えて いる	今後休学 を検討可 能性	今後退学 を検討可 能性	考えて いない	
所属	学部1年	0	0	0	0	20	20
	学部2年	0	0	0	1	23	24
	学部3年	0	0	1	0	19	20
	学部4年	1	0	1	0	26	28
	大学院・修士課程	0	1	3	0	25	29
	大学院・博士課程	0	0	1	0	5	6
	留学生	1	0	0	0	5	6
合計		2	1	6	1	123	133

3. 新型コロナウイルス感染拡大前後のアルバイト状況との関係について

注1) 新型コロナウイルス感染拡大前後とは今年2月以前と3月以降。

注2) シフト減等影響有とは新型コロナウイルス感染拡大前後でアルバイトの状況にシフトが減る、行けない、辞めざるを得なかった、自分から辞めた等変化あった者。

注3) 現状維持とは新型コロナウイルス感染拡大前後でアルバイトの状況に変化がなかった者。

(1) 統計的有意差はないが、シフトが減る等アルバイト状況が悪化した学生は、食事の回数が減っている割合が高い。

コロナ後アルバイト状況 と 食事減 のクロス表

度数

		食事減		合計
		維持	食事回数減	
コロナ後アルバイト状況	現状維持	2	4	6
	シフト減等影響有	41	56	97
合計		43	60	103

(2) 統計的有意差はないが、シフトが減る等アルバイト状況が悪化した学生は、生活費に対する不安の割合は高い。

クロス表

度数

		生活費		合計
		不安選択無	不安選択有	
コロナ後アルバイト状況	現状維持	4	2	6
	シフト減等影響有	29	68	97
合計		33	70	103

(3) 統計的有意差はないが、シフトが減る等アルバイト状況が悪化した学生のみが退学や休学を考えている。

コロナ後アルバイト状況 と 休学・退学の意向 のクロス表

度数

		休学・退学の意向					合計
		休学を考えている	退学を考えている	今後休学を検討可	今後退学を検討可	考えていない	
				能性	能性		
コロナ後アルバイト状況	現状維持	0	0	0	0	6	6
	シフト減等影響有	2	1	4	1	89	97
合計		2	1	4	1	95	103

5. 食事の回数が新型コロナウイルス感染拡大の影響が出た前後（2月以前と5月）を比べて減っている学生の実態について

(1) 食事の回数と同時に主食を減らしている学生も一定数いる。(5%水準で有意, $p < .01$)

クロス表

度数

		主食		合計
		食べられている	食べられていない	
食事減	維持	55	3	58
	食事回数減	57	18	75
合計		112	21	133

(2) 食事の回数と家賃に対する不安には関係があると言える。(1%水準で有意)

クロス表

度数

		家賃		合計
		不安選択無	不安選択有	
食事減	維持	48	10	58
	食事回数減	42	33	75
合計		90	43	133

(3) 食事の回数と自分自身の健康に対する不安には関係があると言える。

(5%水準で有意, $p < .009$)

クロス表

度数

		自分自身の健康		合計
		不安選択無	不安選択有	
食事減	維持	47	11	58
	食事回数減	45	30	75
合計		92	41	133

★補足

○%水準で有意とか、統計的有意差という表現の意味は、このデータからどのぐらいの確立で一般的な話として語れるのかということです。つまり、有意差がない場合は、今回の利用者の特徴としては語れるけれども、他の大学生など一般的な話としては語れないということです。逆に学年で有意差がなかったという意味は、学年に関係なく困っているとも言えます。